

1. 取組の成果のポイント

- (1) 校内研究体制を学年別研究会（Team123）とし、授業実践研究を進めていく。
- (2) 小中学校で研究主題を統一し、共通の取組を実践していく。
（ゲストティーチャーや地域教材の活用、いしかわ県版道徳教材の活用など）
- (3) 月2回学年で共通実践に取り組む。
- (4) 大徳地区のボランティア活動実践（清掃活動）
- (5) 年度当初の『絆週間』に道徳の実践を行う。

2. 研究主題

豊かな心を育み、共に学び高め合う大徳中生
～温かなつながり（連携・関係・体験）を通して～

3. 研究のねらい

本校では、研究主題を「自ら学び、ともに高め合う学習活動」、副題を「授業で育つ生徒をめざして」として、平成20年度から副題を新たに「豊かな表現力をめざして」として研究実践をすすめてきた。教師の授業力向上と評価の改善と工夫、学び合いの基盤となる学習規律や仲間作りを柱にして取り組んできた。

しかし、友達の良さを互いに認め合い、相手を尊重する気持ちが十分でなく、生徒同士の教え合い、助け合い、生徒の生き生きとした豊かな表現力という点では課題が残った。全体的には、明朗で素直な生徒が多く、行事に対しても前向きであるがコミュニケーション能力が不足している。学び合いや生き生きとした豊かな表現力には、温かい人間関係や道徳教育の充実が基盤となる。

また、平成23年度の10月に発足した学校改善プロジェクトを中心に本校生徒の実態を洗い出し、めざす生徒像「たくましくて思いやりのある生徒」に絞り込んできた。加えて解決すべき今日的課題として、かかわりの希薄化、心のあり方が問われている。

こうした課題に対処するため本校では、主体的に考え自ら進んで解決しようとする能力、他者との協調性、思いやる心や感動する心など豊かな人間性を育てることが重要であり、学校全体で道徳教育の充実に取り組みたいとの願いから研究主題を大きく変え、3年目に入った。

さらに、今年度、石川県教育委員会より、「いしかわ道徳教育推進事業」道徳教育推進校の研究指定を受けるとともに金沢市教育委員会より学校力向上研究支援事業（道徳教育）の指定を受け、道徳的価値の自覚を深める授業づくりをめざし、研究実践に取り組むこととした。

4. 研究の概要及び特色

(1) 道徳教育の研究体制の確立

① 校内研究体制の改編と「道徳の時間」の充実

- ・ 道徳チームを学年別に改編し授業実践研究を進めていく。
- ・ 月2回は共通実践に取り組む。

② 「いしかわ県版道徳教材」やゲストティーチャーの積極的活用

- ・ 年間計画の中に「いしかわ県版道徳教材」を計画的に組み込む。
- ・ 地域教材やゲストティーチャーを活用した授業開発と授業実践をめざす。
- ・ 保護者参加型の授業や家庭と地域との相互連携を図った道徳の授業を充実させる。

(2) 道徳教育の小中連携

① 小中合同道徳研修会

- ・小中学校が一体となって地域教材の開発や研修会を開催する。
- ②「道徳の時間」の公開授業
 - ・小中学校で「道徳の時間」の授業交流を年2回以上実施する。
- (3)学校教育全体を通しての道徳教育の充実
 - 小中連携の挨拶運動や大徳地区の奉仕活動、授業・清掃開始時の黙想など様々な場面での心を耕す取組を推進する。

5. 研究の評価

(1) 研究の成果

①全校的な道徳教育の体制づくり

- ア 学校研究の推進母体を道徳部会に移し、研究主任と道徳教育推進教師を中心とした道徳部会を週1回開催することができた。
- イ 全職員が道徳研究チームに分かれ、研修計画や研究授業実践、資料、教材開発などに役割分担をすることで、参画意識を高めることができた。
- ウ 校内の研究授業体制を道徳を中心に据え、道徳係が学年会で授業の提案や資料提供をすることができた。
- エ 4月に全校で『絆週間』を実施することで、新学期のスタートを学級の生徒としっかりとした人間関係の土台づくりなど計画的に実践できた。絆週間の取組の主旨をふまえ、全職員と生徒との良好な信頼関係を築く大事なこの時期は、具体的な学級活動を通して集団の一員としての自覚が高まる。集団の中での心構えと学級づくりの具体的取組を見通す意識をもつ大切な週間として、「道徳の時間」を位置づけたのは意義があった。
- オ 「ふるさとがはぐくむ道徳いしかわ」を3学年通して4時間以上計画的に活用することができた。
- カ 小中一貫教育の中で学校研究を道徳教育「豊かな心を育み、共に学び高め合う～温かなつながり（連携・関係・体験）を通して～」で統一し、道徳の授業参観の交流や合同の研修会や講演会など計6回、実施することができた。
- ク 道徳や生徒理解を中心にした校内研修会（11回）の充実を図ることができた。

【小中合同道徳研修会】



【道徳の基礎講座】



【小中道徳オリジナルポスター】



【指導案検討会】

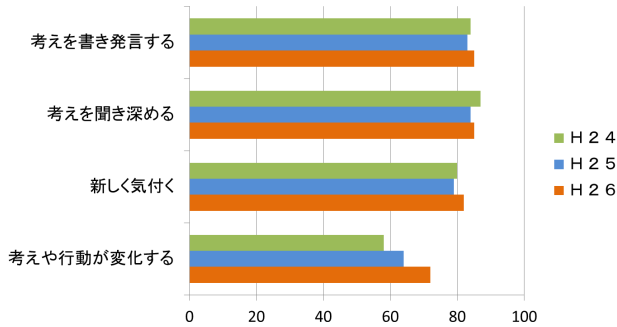


【いしかわ県版道徳の活用・赤字】

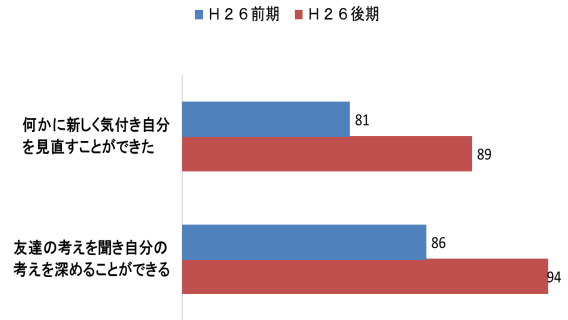
冊	主題	資料名	内容項目	指導のねらい	教科科・領域と の関連	行事	私生活の 活用
6	個性を伸ばす 互いに高めあ う	4 互方回廊られ み 真実の真実の 下で	1-(5) 向上心、 個性の伸 び 2-(3) 友情	自己を異つ つめ、自己の向 き 真の友情は相 互の信頼関係 や相手への敬 う	・部活動 ・保健体育 ・生徒会活動 ・部活動	運動会 P38-45 P66-77	
6	望ましい 生活	7 受験生あつこ の日記	1-(1) 節度・親 和のある 生活 か、心身の摩 耗	望ましい生活 習慣を身に付 け、心身の摩 耗を減らす	・保健体育 ・進路指導	修学旅行 運動会 P10-15	
7	社会の 規則と 規範	11 誰が本当の作 者？	4-(1) 秩序・規 律	法や規則の意 義を理解し、 遵守する心情 を養う。	・技術・家庭 科（技術分野） ・情報教育	P134-145	
9	雄大な 日本人	15 雄雄色の星 17 歴史の教科書	3-(2) 自然愛、 4-(9) 日本人と	自然に対する 国際社会に生 きる	・理科 ・社会	P114-119 P206-213	
11	思いや りの心	21 流れ星	2-(2) 思いやり	温かい人間 関係の精神を深 める	・国語	P54-59	
	家族を 愛する 心	み 気の息風	4-(6) 家族愛	家族を敬愛 し、家族の一 員としての自 覚	・技術・家庭 科（家庭分野） ・総合的な学 習	P180-193	
	異文化 理解	み いしかわよ！ ISHIKAWA	4- 国際理解	日本人として の自覚	・社会	P214	
9	文化の 継承と 発展	み 朝の風をよぶ と	4-(9) 日本人と しての自 覚	日本の伝統文 化の良さにつ いて理解を深 める	・音楽 ・総合的な学 習	卒業式 生徒会役 員選挙 P206-213	

② 生徒の変容については、下記の各データからも大きな変化が見られた。

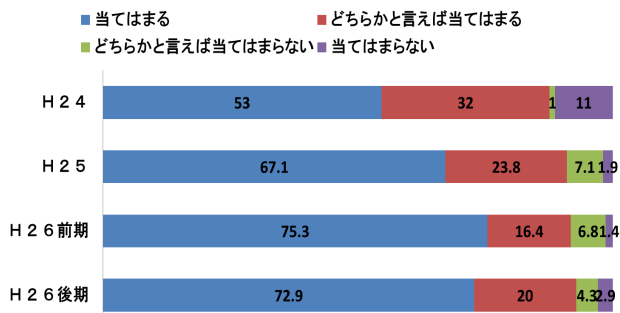
**生徒による授業評価(自校独自)
肯定的回答(全校)**



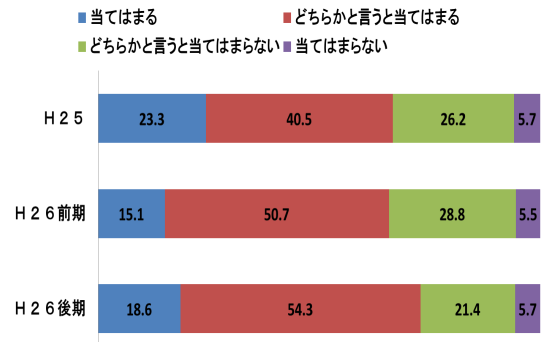
**生徒による授業評価(自校独自)
肯定的回答(3年生)**



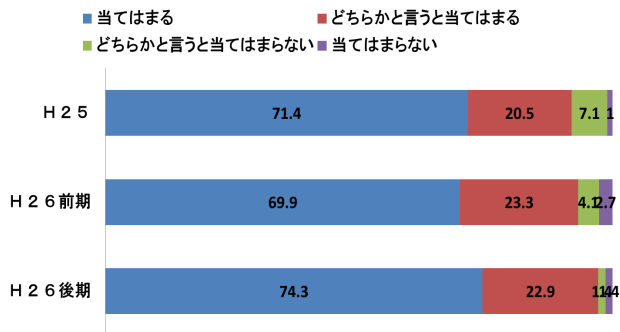
**いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか？
(全国学力調査・生徒質問紙などより)**



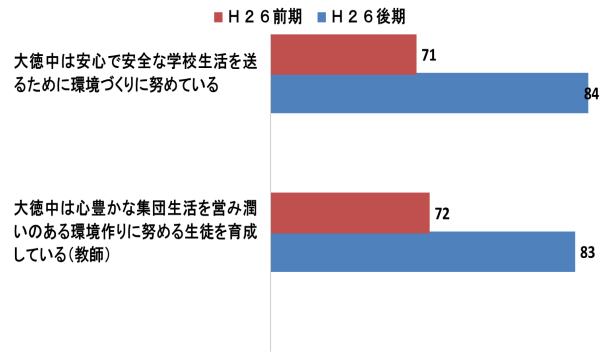
**自分にはよいところがあると思いますか？
(全国学力調査・生徒質問紙などより)**



**人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか？
(全国学力調査・生徒質問紙などより)**



**学校評価(自校独自)
教師・保護者アンケート**



また、生徒の授業アンケートの感想の中には、

- ・ 道徳の時間は自分を見直すいい機会になって、いいなあと思う。
- ・ 道徳の時間は全員が発表できたら、もっといいなあと思う。もっともっと授業時間の中でみんなの考えが聞きたいです。
- ・ いろんな友だちの考えを学級通信で知って、意見にもいろいろあり、考え方や見方にもいろいろあることが分かった。

など肯定的で道徳の時間を大切にしたいという記述も多数見られた。

③ 日常的な道徳教育の充実

『礼・知・徳』の校訓を意識し、一昨年からの取組「校舎に礼」や「静寂鐘」の実践を通し道徳的実践力に繋げていくことができた。

【静寂の鐘】



【奉仕活動】



【校舎に一礼】

(2) 今後の課題と予定している取組

① 道徳的実践力への強化

『道徳の時間』の後、生徒自身が切実に自分のこととして捉え直し、考えを深化させ、道徳的実践力を高めていくことが課題である。授業評価の道徳の項目の『授業に、自分の考えや行動に変化があった』の問いに対して、肯定的に答えた生徒は、64%から72%に増加している。

全校をあげて道徳教育の充実に取り組んできた3年間であったが、『道徳の時間』を要として、様々な教育活動の中で、計画的、系統的に道徳的な自覚を深め、道徳的判断力や実践力を身につけさせるかがやはり大きな課題である。めざす生徒像に近づけるために多様な教育活動に取り組んできたが、具体的に生徒のどのような姿になった時に良とするのか、難しい点がある。

② 教師の指導力・授業力

「道徳通信」の定期発行や指導案検討、生徒理解などの研修会も多数開催してきたが、教師自身の指導力を高めて『道徳の時間』そのものの充実を図ることが望まれる。また、生徒会や生徒指導、地域との連携や小中一貫教育の中で多様な取組を開拓し実践していく余地がまだまだある。

現在の生徒の実態はどのようなものか、教師集団はしっかりと共通理解し、生徒との人間関係を深めつつ道徳的価値の自覚を高める教育活動に取り組まなければならない。共通理解の上に一貫性、継続性が求められる。そのためには、3W（チームワーク・フットワーク・ネットワーク）が重要である。様々な切り口から生徒の道徳的判断力や実践力をつける研究実践を進めていかなければならない。

今年度から、始めた「ふるさとがはぐくむ道徳いしかわ」と副読本との計画的な活用や「わたしたちの道徳」の効果的な活用についてもさらに研究を進めていきたい。

今年度の学校研究は、思いやりの心をいかに豊かに高めていくかということが課題であったが、心の変容を表すことは難しく、なかなか判断しにくい面がある。道徳の授業評価から見えてくることや各種アンケートの結果から見えてくる変化だけでなく、必ず生徒達の言動に

変化がみえてくるはずである。生徒たちの心の有り様や考え、行動が少しずつ変わっていったことがお互いに深く自覚できるような実践をさらに続けていかなければならない。

③今後予定している取組

- ◇道徳教育の研究に全職員が積極的に関わり、今後も研鑽しつみあげていく。
- ◇いしかわ県版道徳教材のさらなる効果的活用の在り方を追究していく。
- ◇小中一貫教育として、「道徳の時間」の授業交流や心を育む教育活動の連携をさらに広げていく。
- ◇道徳関連の掲示物や道徳のノートなどの工夫に取り組む。

6. 参照できるホームページアドレス

<http://www.kanazawa-city.ed.jp/daitoku-j/>